

**難聴児の早期支援充実のための連携体制構築事業
成果報告書**

受託団体名
岐阜県教育委員会

1. 事業の実績

(1) 事業の目的・目標

事業の目的
<p>本県においては、岐阜聾学校を中心に全県を対象に支援を行っている。しかしながら、聴覚障がい の専門的な医療・療育・教育機関の多くは岐阜市にあり、岐阜市から遠距離にある地域では、乳幼児 が専門的な診療や療育、教育を受けたり、保護者が身近に相談したりできる機会が限られ、保護者か ら不安の声が届けられることもある。</p> <p>こうした不安を軽減し、安心して教育につなぐため、本事業では岐阜市から遠距離にある飛騨地域 に重点を置いた取組を行う。飛騨特別支援学校地域支援センター内に聴覚部門を設置し、地域の早期 支援の拠点とする。ここでは、飛騨特別支援学校聴覚障がい支援専任教員（飛騨特別支援学校地域支 援センター員）を配置し、岐阜聾学校地域支援センターと連携しながら乳幼児教室の開催や地域の関 係機関との連絡・調整を行う。</p> <p>さらに、この取組で得られた成果や知見を飛騨地域と同様に岐阜市から遠距離にある他の地域にお いても周知し、本人や保護者を対象とした教育相談や園校への訪問支援、教職員を対象とした研修等 でも活かせるようにする。</p>
事業の目標
<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児教室や個別相談、在籍園等の訪問を通して保護者の育児に関する不安の軽減や聴覚障がい に関する理解を図ったり、個々の難聴乳幼児の実態や困り感抱える困難さ等に対する相談等を行 う。 ・難聴児童生徒等の在籍する、飛騨地域の幼保小中高等学校等の要請に応じて訪問し、授業（保育） 参観、懇談（担任、保護者、本人等）、理解啓発授業、職員研修等を通して、聞こえにくさとそ の支援についての情報提供や、支援方法についての助言等を行う。 ・飛騨地区特別支援教育連携協議会（聴覚部会）を設置し、乳幼児からの支援の状況を保健、医療、 福祉、教育の関係機関で交流し、情報共有やニーズの把握、意見聴取等を行い、飛騨地域に—お いて乳幼児期からの切れ目のない聴覚障がい支援体制を構築する。

(2) 研究協力機関・校の一覧

(ふりがな) 学校名	障害種	具体的な役割
ぎふけんりつぎふろうがっこう 岐阜県立岐阜聾学校	聴覚障がい	全県の聴覚障がい支援を担う特別支援学 校コア・スクール
ぎふけんりつえなとくべつしえんがっこう 岐阜県立恵那特別支援学校	知的障がい 肢体不自由	東濃地域において聴覚障がい支援機能を 有する特別支援学校地域支援センター

	病弱	
ぎふけんりつひだとくべつしえんがっこう 岐阜県立飛騨特別支援学校	知的障がい 肢体不自由 病弱	飛騨地域において聴覚障がい支援機能を有する特別支援学校地域支援センター
ぎふけんきょういくいんかいとうのうきょういくじむしょ 岐阜県教育委員会東濃教育事務所		東濃地域において聴覚障がいの研修及び支援を実施する機関
ぎふけんきょういくいんかいひだきょういくじむしょ 岐阜県教育委員会飛騨教育事務所		飛騨地域において聴覚障がいの研修及び支援を実施する機関

(3) 取組内容

- 飛騨特別支援学校における乳幼児教室の開催
- ・飛騨特別支援学校聴覚障がい支援専任教員を中心に、岐阜聾学校で指導経験のある教員、地域支援センター担当教員による校内チームを編成し、乳幼児教室を月2回開催した。
 - ・絵本や教具など、乳幼児教室の環境を整えてきたことで、乳幼児が意欲的に活動に取り組んだり、会話を楽しんだりする姿が生まれた。

<乳幼児教室の参加者数と実施方法>

	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
参加者	6親子	3親子	5親子	3親子	2親子	2親子	7親子	3親子	4親子	5親子
方法	オンライン	オンライン	オンライン	オンライン	オンライン	オンライン	集合	集合	集合	集合

- 飛騨地域特別支援教育連携協議会聴覚部会
- ・令和3年度に立ち上げた特別支援教育連携協議会内において、飛騨特別支援学校乳幼児教育相談の活用を各市村に働きかけ、各市村での支援事例を聴覚部会において交流した。
- 特別支援学校（聴覚障害）における乳幼児教育相談担当者の専門性向上
- ・実践的な指導力の向上のために、専門家に乳幼児教室の指導やその後の保護者相談を参観してもらい、事後に助言を受けた。
- 幼稚園、小学校等における訪問支援
- ・聴覚障がいのある児童等の支援を担当する者を対象にした、聴覚障がい支援専任教員を講師とする教職員向け研修を東濃地域で年3回、飛騨地域で年3回開催した。
 - ・聴覚障がいのある幼児の在籍する園等での訪問支援を東濃地域で4回、飛騨地域で7回行った。その際、園児が興味をもってことばに触れられるように、絵本やことばの図鑑等を紹介した。
- 保護者向け個別相談会
- ・聴覚障がいのある0～5歳児の乳幼児の保護者を対象にした相談会を東濃地区で2回、飛騨地区で3回実施した。
 - ・相談会に参加した保護者等に、家庭でも乳幼児が興味をもってことばに触れられるように、絵本やことばの図鑑等を紹介した。
- 関係諸機関との連携
- ・岐阜県難聴児支援センターが毎月開催する連携会議（オンライン開催）に、岐阜聾学校、恵那特別支援学校及び飛騨特別支援学校の担当者が参加し、県内の聴覚障がいに関わる関係機関と地域の状況について情報共有し、連携方法について協議した。

(4) 事業の成果

- 飛驒特別支援学校における乳幼児教室の開催
 - ・飛驒地区に在住する保護者が、遠方にあるみやこ園（児童発達支援センター）を利用しつつ、飛驒で行われている乳幼児教室にも参加している。オンラインではなく対面での指導や相談ができることに、保護者は安心している。
- 飛驒地域特別支援教育連携協議会聴覚部会
 - ・飛驒地域特別支援教育連携協議会聴覚部会において、早期からの支援の必要性を啓発したことで、保健師からの相談が3件あった。これをきっかけに、飛驒特別支援学校担当者が保健師の家庭訪問への同行や保健師を通じた情報提供を行うことができた。
- 特別支援学校（聴覚障害）における乳幼児教育相談担当者の専門性向上
 - ・令和4年度は、県内の担当者がオンラインで医師や言語聴覚士、当事者等を講師に迎えた聴覚活用や言語獲得（言語発達）、障がい認識等の研修を受講できるようにしたことで、担当者の専門性の向上につながった。
- 幼稚園、小学校等における訪問支援
 - ・飛驒特別支援学校担当者が園児の療育先へ訪問支援する際に、在籍園の担任が同席し、保護者、園、療育担当者の4者でケース会議を開催し、園児への一貫した支援について協議できたことで、支援の充実につながった。
- 保護者向け個別相談会
 - ・保護者からは、「地元で相談できる場所があることで安心できる」「次年度以降も継続してほしい」というご意見をいただいている。
 - ・相談会の前半に、聴覚障がいのある方の体験談を聞く場を設けた。「早期からの療育の大切さを学ぶことができた」という保護者からの感想があり、今後の継続した相談につながった。
 - ・相談会に市町村教育委員会の担当者が参加したことで、保護者と教育委員会がつながり、就学に向けての相談を始めるきっかけとなった。
- 関係諸機関との連携
 - ・みやこ園で精密検査や補聴器装用を行った親子について、みやこ園から情報提供を受け、必要に応じて飛驒特別支援学校聴覚障がい支援専任教員が相談支援を行うことができた。
 - ・軽度の難聴のため、専門療育の必要性を感じていない親子に対して、みやこ園では聴覚管理を行い、乳幼児教室では保護者の相談に応じる、という連携した支援ができた。

(5) 課題と今後の方策

- ・市町村の保健師と共に乳幼児とその保護者に対する、家庭訪問や個別相談を通して、保護者の不安を軽減し、安心して専門機関とつながることができた。
- ・乳幼児教室参加者の在籍園含む園校に対して、訪問支援を実施し、参観後に園校の担当者と保護者、関係市教育委員会担当者、福祉課担当者等と懇談することで、支援や就学先、就学後の支援の引継について助言することができた。
- ・難聴乳幼児学級に加え難聴児童生徒交流会を開催し、難聴児同士が継続的につながることができた。
- ・保護者の不安や乳幼児の聞こえにくさに対する支援のための特別支援学校の専門性の活用に努める。
- ・関係機関の情報の共有や連携の仕方について事例を集め、協議を継続する。